

藤原歌劇団は、オペラ歌手の藤原義江を中心とする日本の代表的な歌手たちとスタッフによって、1934年(昭和9年)に誕生しました。誕生以来、今日まで、日本初演を含む80作品を超えるオペラを上演し、特にイタリア・オペラを中心に公演しています。

藤原義江は人気テノールとして主役で活躍するかたわら、初代総監督(プロデューサー)として日本のオペラ界の先駆者として偉大な功績を残しました。

1985年より三代目総監督にテノール歌手の五十嵐喜芳が就任し、名作を中心にオペラの普及を目指し、外国の歌手、指揮者、演出家をはじめとするスタッフを起用し、国際レベルの舞台を上演してきました。

また、1986年には日本で初めて字幕を導入し成功を収め、日本オペラ界の向上・発展に力を注ぎました。五十嵐喜芳総監督が新国立劇場オペラ芸術監督への就任に

伴い退任した後も、名作路線を継承し、2003年よりバス歌手の岡山廣幸が公演監督(2014年に総監督)に就任し、意欲的にロッシーニ作曲のオペラ「セビリヤの理髪師(新校訂版)」などを上演しました。現在は、2016年4月よりバリトン歌手の折江忠道が総監督に就任し、世界レベルのオペラを制作・上演しています。

今年度の主催公演は4月に川崎市新百合ヶ丘でのドニゼッティ作曲「劇場のわがままな歌手たち」を皮切りに、9月には新国立劇場にてヴェルディ作曲「二人のフォスカリ」を上演。今後は2024年1.2月に東京・名古屋でグノー作曲「ファウスト」を上演致します。

また文化庁アートキャラバン事業では8月に青森・宮城・群馬の各地でプッチーニ作曲「蝶々夫人」を上演し12月にはプッチーニ作曲「ラ・ボエーム」を大阪・香川にて公演予定です。

藤原歌劇団は日本で最も歴史のあるオペラ団体であり、2024年には創立90周年を迎えます。



藤原歌劇団旗揚げ公演「ラ・ボエーム」(1934年)

オペラはいつごろ生まれたか

1580年代に、イタリア・フィレンツェの貴族で芸術の保護に大変熱心なバルディ伯爵は、自分の館に詩人・画家・音楽家・哲学者等を招いて、ギリシャ悲劇を復活させようと話し合っていました。このような芸術運動の中でオペラは創られました。

1598年、リヌッチーニ脚本、ペーリ作曲の「ダフネ」を上演。これが記録にのこる最古のオペラとされています。その後、1600年10月6日、メディチ家のお祝いに「エウリディーチェ」(ペーリとカッチーニの共作)が上演されました。これが現存する最古の

オペラです。このオペラが上演された1600年は、日本では関が原の戦いがあった年です。イタリアで生まれたオペラはその後ドイツやフランスでも広がり、モーツァルトやベートーヴェンなど有名な作曲家が作曲するようになりました。オーケストラやバレエも取り入れられ、総合芸術として発展しました。

日本人による、我が国最初の本格的なオペラ公演は1903年7月23日、東京音楽学校奏楽堂で上演されたグルックの「オルフェオとエウリディーチェ」です。

知ってますか? ~10月1日は「国際音楽の日」です~

1977年にユネスコの要請で設立された国際音楽評議会という会議で、翌年の1978年から毎年10月1日を、世界の人々が音楽を通じてお互いに仲良くなり交流を深めていくために「国際音楽の日」とすることにしました。日本では、1994年から毎年10月1日を「国際音楽の日」と定めています。

令和5年度 学校巡回公演事業

藤原歌劇団公演

助けて、助けて、 宇宙人がやって来た!



「学校巡回公演事業」

小学校・中学校等において文化芸術団体による実演芸術の巡回公演を行い、子供たちが質の高い文化芸術を鑑賞・体験する機会を確保するとともに、子供たちの豊かな創造力・想像力や、思考力、コミュニケーション能力などを養い、将来の芸術家や観客層を育成し、優れた文化芸術の創造に資することを目的としています。

ワークショップでは、子供たちに実演指導又は鑑賞指導を行います。また、実演においては、子供たちが参加できる工夫を行います。



文化庁

舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)
独立行政法人 日本芸術文化振興会

たす たす
助けて、助けて、



ものかたり
物語

はるやす お の こども がっこう む
春休みが終わり、スクールバスに乗って子供たちが学校に向かっている
とちゆう こしやう と
途中、バスが故障して止まってしまう。

とつぜん ひか おそ
そこへ突然、光るエイリアンがあらわれ襲いかかってきた!!

うんてんしゆ な
バスの運転手のトニーがクラクションを鳴らすとエイリアンは逃げていく!

おんがく じやくてん
トニーはラジオを付ける。「エイリアンはアコースティックの音楽が弱点」と

さいご な
最後のニュースが流れる。

こども なか ゆいいつ も たす もと がっこう む
子供たちの中で唯一ヴァイオリンを持っているエミリーは、助けを求め学校に向かう。

ころ がっこう こども どうちやく ま こうちやうせんせい おそ
その頃、学校では子供たちの到着を待っている校長先生がエイリアンに襲われてしまうが、先生たちが楽器を鳴らし

エイリアンを撃退する。しかし校長先生は声が出なくなってしまう。

せんせい がっき も かえ こども むか い
先生たちはそれぞれ楽器を持ち、帰ってこない子供たちを迎えに行く。

せんせい と のこ こども み
先生たちはバスに取り残された子供たちとトニーを見つけるが、そこにエミリーがいないことに気づく。

こうちやうせんせい にんげん さいご ちから きが と だ
校長先生はだんだんエイリアンになりかけるものの、人間として最後の力をふりしぼってエミリーを探しに飛び出し

ていき せんせい こども こうちやうせんせい お
ていき、先生たちと子供たちも校長先生を追いかける。

はたしてエミリーを見つけることが出来るのか!!

まく にほんご やくしじやうえん
オペラ1幕 日本語訳詞上演
ジャン・カルロ・メノッティ作曲
かしげんやく あぐに やすひこ
歌詞原訳 粟國 安彦



スタッフ・キャスト

●●●●●●●●●●



しき
指揮／仲田 淳也・中橋健太郎左衛門
えんしゆつ
演出／岩田 達宗

＜キャスト＞

エミリー 中畑 有美子 山邊 聖美
音楽の先生 佐藤 美枝子 別府 美沙子
校長先生 折江 忠道 持木 弘
バスの運転手 岡 昭宏 大石 洋史
学校の門番 市川 和彦 山内 政幸
算数の先生 松原 広美 牧野 真由美
国語の先生 市川 宥一郎 和下田 大典
理科の先生 龍 進一郎 岡山 肇
アナウンサー* 柴山 秀明
生徒* 安藤 千尋 伊藤 香織 芝野 遥香
加藤 美帆 中桐 かなえ

グロボリンクス* 鷺田 実土里 上原 彩弥 森田 真希

*印は全日出演ですが他の役はダブルキャストの1名が出演します。

演奏

ピアノ 高橋 裕子
藤原 藍子
ヴァイオリン 青山 英里香
加藤 由佳



＜スタッフ＞

総監督 折江 忠道
美術デザイナー 島 次郎
衣装デザイナー 増田 恵美
照明デザイナー 稲葉 直人
音響デザイナー 青木 央 寺部 和貴
振付 鷺田 実土里
舞台監督 渡邊 真二郎
演出助手 橋詰 陽子
舞台監督助手 永田 順子
相澤 隆史 池田 日奈子
ザ・スタッフ
小道具 東宝舞台
大道具 モマ・ワークショップ
衣装操作 A.S.G.
照明操作 丸善
ヘア・メイク 丸善
運送 グリーンライン光進
協力 東京文化会館(公益財団法人 東京都歴史文化財団)
制作 公益財団法人日本オペラ振興会

©本著作物の上演使用は、全音楽譜出版社およびG. Schirmer, Inc.により許諾されています。

企画(出演者・スタッフ交渉)

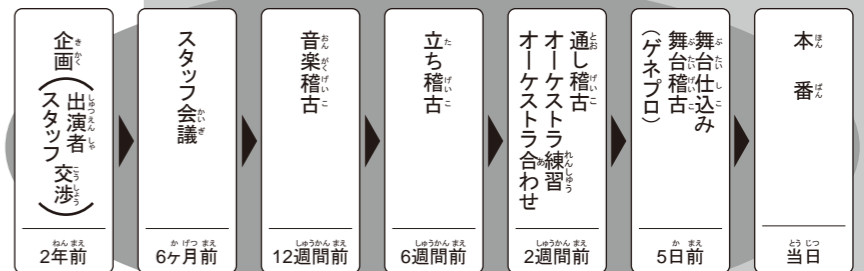
オペラの上演企画は、まず(演出目を決める)ことから始められます。主催団体に適した作品で、なおかつ観客の要望に見合ったものかどうか考え合わせた上で選曲されます。また同時に約1~2年後の公演日を設定し、会場も決められます。

スタッフ会議

スタッフのかなめとなる指揮者と演出家が決まったところでキャストイングが行われます。指揮者のもとに合唱指揮者、副指揮者、ピアニストが音楽スタッフとして、演出家のもとに舞台監督、美術、衣裳、照明の各プランナーが演出スタッフとしてそれぞれ構成されていきます。これらのスタッフに制作者も加わり、スタッフ会議が行われ、ここで上演意図、演出プラン、作曲の解釈などについて綿密な打ち合わせがなされるのです。

音楽稽古

さて、いよいよ稽古の始まりです。出演者たち(ソリスト及び合唱)は各自十分な譜読みをした上で音楽稽古に入ります。ここでは楽譜を正確に歌うことに主眼がおかれ、音楽稽古の総まとめとして、ソリストと合唱による合同稽古が行われます。一方、舞台装置、衣裳などのデザインもこの頃決定され、各製作会社に発注されます。



立ち稽古

出演者が暗譜した頃、歌に演技をまじえての本格的な立ち稽古が行われます。演出家のほかに指揮者も加わり、劇と音楽が一体化されていきます。出演者は立ち稽古のあい間をぬって、衣裳合わせ、かつら合わせ、持ち道具の確認を行い、少しずつ本番の雰囲気になづけていきます。

通し稽古・オーケストラ練習・オーケストラ合わせ

立ち稽古の総仕上げとして行われるのが、通し稽古です。これは、部分的な稽古で掘り下げたことを一つの線にまとめていく上で欠かせないもので、一幕から終幕まで順を追って進められていきます。通し稽古も終わろうとする頃、オーケストラ合わせが行われます。

舞台仕込み・舞台稽古(ゲネプロ)

舞台稽古にそなえて、舞台装置が組み立てられ、照明が吊り込まれ、照明合わせが行われます。ここまででほぼ本番と同じ条件が整うと、いよいよ総合舞台稽古となります。通常“ゲネプロ”と呼ばれ、本番通り一幕から終幕まで通して行われるもので、ここで作品にいっそう磨きがかけられ、いよいよ初日の幕が開くことになるのです。

オペラは

こうして創られる。